言語教育―漢字学習をめぐって―　壬生博士

読書指導について

八月一日　京都府立勤労会館

今日の教育情況と「たちばな」解雇問題　佐野禎治

教師集団の生徒観　東邦彦

犬島良治

特別報告　教育と地域　市原野小　藤原富造

十一月二十六日　同志社大学尋真館

平家物語論―いくさがたりの方法　松村暢夫

藤村「緑葉集」の問題　八木良夫

カリキュラム改訂の一例

―平安女学院高校の場合―　内田満

岸健治

十一月二十二日　同志社大学弘風館

公開講演会　なぜ文学を研究するのか

法政大学教授　益田勝実

昭和四十一年度卒業論文題目

椎名麟三論

―悲劇的にして喜劇的なる自己救済の奇跡―　秋成多美

昭和四十二年度国文学会役員

会長　土橋寛

常任委員　小森啓助

里井陸郎

安永武人

広川勝美

八木良夫

宮下隆夫

原田敦子

今井昌子

滝井幸雄

産本員子

山崎忠宏

釜須昭子

評議員　二十八名

昭和四十二年度国文学会活動状況

六月十一日　同志社大学尋真館

作文教育　中村幸子

好色五人女　天木昭子
万葉における無常　荒川須美
山部赤人の叙景歌　荒木克美
金槐和歌集の特徴　藤原由紀子
宮本百合子の創作方法　福島英子
中島敦論
—「狼疾の文学」とその精神風土—　古越宏枝
人麿の神観について　古瀬満子
戯曲の言葉
—「紙風船」と「女人渇仰」を通して—　古田良三
「好色一代女」考察　原満寿美
「雨月物語」について　林栄子
有島武郎論
—その思想と文学—　平沢奉美
憶良の特異性と意見の考察　市川道子
遠藤周作におけるキリスト教と文学　池上恵
「平家物語」における木曽義仲像　今井淳子
或る女論
—女性問題を中心として—　井上勲
昔話と竹取物語　石川清人
「曽根崎心中」の考察　磯辺邦子
金達寿論
—民族の独立と人間性回復との統一—　上川輝夫
「好色一代男」考察　亀井多嘉子
「播州平野」のなかの朝鮮人像　金静江
和泉式部日記における「つれづれ」について　神野育代
「枕草子」論　川村由美子
近松戯曲、新古典への可能性　木村昌平
中野重治論
—その転向について—　岸健二
明石の君をめぐる宿世について　小堀汀
「日本永代蔵」考察　国富干早
「世間胸算用」の考察　増田致恵子
「方丈記」作品研究　松田正一
平家物語私論　松田朋子
有島武郎論
—有島武郎における自我追求—　松永啓子
宮本百合子の文学の特質
—初期作品のヒューマニズムを中心に—　三船光子

夏目漱石
—資本主義社会と利己的個人主義の問題—　三浦豊

夏目漱石論
—我執の問題をめぐって—　宮後厚子

黒人叙景歌の特色　森田薫

「蜻蛉日記」研究
—作者の夢とその崩壊について—　本山桂子

「日本永代蔵」の考察　村松翠

雨月物語論
—近世文学史における「雨月物語」の位置—　長友毅嘉

「方丈記」の矛盾と鴨長明　中嶋黎子

近松の世話物に記された人間的欲求　中村啓子

近松の劇作の方法
—世話悲劇における虚実皮膜の方法—　大木章

「日本永代蔵」　太田敬子

小林多喜二論
—創作方法を中心にして—　太田正道

平家物語文学論　大坪千代子

有島武郎論
—自己貫徹のたたかい—　四条文子

夕顔論　新久純子

「日本永代蔵」考察　塩飽芳子

六条御息所　代田早苗

夏目漱石論
—日本自然主義文学と漱石—　鈴木千嘉子

夏目漱石
—その初期から中期における作品について個人主義に基く人生観を中心にして—　鈴木佳子

文体論の考察
—その客観的文体論の試み—　高橋宏和

大江健三郎論
—その思想と方法—　高井哲夫

樋口一葉論
—一葉文学の発展過程について—　玉田美紀子

かげろふ日記
—「はかなし」の世界—　牛塚紘子

平家物語論　津田裕子

「蜻蛉日記」の考察　和田初美

「和泉式部日記」の一考察　和辻元子
民話における諷刺について　山本正明
源氏物語「浮舟論」　山本睦子
芥川龍之介の愛と芸術の間　山中三郎
島崎藤村論
—「破戒」の虚構をめぐって　山野弘子
「心中天の網島」　山下由紀子
西鶴・町人物の考察　山添典子
「女殺油地獄」　米沢祥子
有島武郎論
—その自我追求程程を追って—　吉田綾子
京ことば　吉弘佐智子
萩原朔太郎　湯本蕗
近松と世話悲劇の世界
—「心中天の網島」を中心に—　柿本千恵子
斎藤茂吉の万葉観について
—柿本人麿との関係を中心に—　木下由美
新浄瑠璃の成立に関する一考察　岡野雅子
芭蕉の文学
—「奥の細道」を中心にして—　大阪和子
金達寿論
—その民族性確立について—　犬飼省三
方丈庵からの脱出　平川博三
梶井基次郎論　中沢光雄
啄木の小説考　斎藤勝幸
山上憶良
—その特異性について—　山田武
「源平盛衰記」と「平家物語」との関係
—「源平盛衰記」の独自性及び文学性—　林洋子
私小説的文学精神の方法化についての試論　樟寿雄
近松世話浄瑠璃
—曽根崎心中論—　中村博史
野間宏論
—人間性解放と思想と文学—　今西郁子
元禄文学論
—町人階級の挫折とその方法について—　片岡英治
二つの「武蔵」にあらわれた吉川英治の秘密　田村文男
新美南吉の児童文学　内田義

大江健三郎論　大槻佳代子
開高健論　奥田明好
―創作方法の特質について―
「わざうた」論　大野隆弘

執筆者紹介

代田早苗……昭和四十一年度卒業生
小森啓助……本学教授
八木良夫……昭和三十九年度大学院（修士課程）修了生
安永武人……本学教授
松下貞三……本学助教授
波多野鹿之助……本学教授

表紙題字　土橋寛

投稿規定

国文学会機関誌「同志社国文学」は、会員諸氏の研究発表の場でありますから、進んで御投稿下さい。枚数は四百字詰原稿用紙三十枚～四十枚。第四号締切は九月末日。ただし掲載論文の数には限度がありますので、論文の採択は編集委員会に一任して下さい。